

第1章

学ぶ意欲をはぐくむには

学ぶ意欲の基本的な考え方についてまとめました。

学ぶ意欲とは

学習指導要領が改訂されましたが、今回の改訂においても、「生きる力」をはぐくむという理念が継承され、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた育成が重視されています。

さらに、確かな学力の構成要素である知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力等の育成とのバランスを重視すること、学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養い、家庭との連携を図りながら学習習慣を確立することも改訂の基本方針として示されました。

学習意欲は、基礎的・基本的な知識・技能やそれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を高める上での基盤となるものとしてとらえることができます。

ところで、学ぶ意欲とは、一体どのようなものなのでしょうか。

先行研究によると、学ぶ意欲についてはいろいろとらえ方がありますが、本調査研究では、次のように定義しました。

(*本調査研究では、「学習意欲」と「学ぶ意欲」を同義ととらえる。)

学ぶ意欲とは…

学習者が意思をもって、自発的に学習活動を求めようとする心の働き

○学習活動そのものに対する欲求…「学ぶこと自体がおもしろい」「知りたいから学ぶ」

○自己実現の手段としての欲求……「よい成績を取りたい」

「希望する職業に就くために学習する」

つまり、**学ぶ意欲**には、「学びたい」という気持ちと、「目標を達成するために粘り強く学んでいこう」という気持ちが含まれます。

(リーフレット「学ぶ意欲をはぐくむ」より 栃木県総合教育センター 平成 22 年3月)

学ぶ意欲をこのようにとらえ、本冊子では、学ぶ意欲が育つ過程や測定法、授業における効果的な働きかけの方法について述べていきます。

参 考

「学校教育法 第30条第2項、第49条、第62条」 (平成19年6月27日公布)

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

学力の三要素

(中教審答申より 平成20年1月)

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力 等
- ③ 学習意欲

学習指導要領解説 総則編より

(平成20年8月)

個別指導やグループ指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導など個に応じた指導の充実により分かる喜びを実感したり、観察・実験やレポートの作成、論述などの体験的な学習や知識・技能の活用を図る学習活動、職業や自己の将来に関する学習などを通して学ぶ意義を認識したりすることで学習意欲を高めることが求められる。